

# 第7回 人権シンポ in かながわ

2019年

土

11月2日

10:00~

入場無料  
予約不要

会場 横浜市開港記念会館

(横浜市中区本町1丁目6番地)

## プログラム

開港記念会館 講堂 (9:30開場)

10:00 DVD「死刑を免れた男たち  
～無期懲役囚の実態～」上映

製作：TBSテレビ報道局

講演「死刑廃止と代替刑を考える」

海渡 雄一 さん (弁護士・第二東京弁護士会)



12:45 神奈川県弁護士会人権賞贈呈式

14:00 講演「改憲問題はどのように『問題』なのか  
憲法を実感できない生活と意識の『現場』から考える」

中西 新太郎 さん

(関東学院大学教授、横浜市立大学名誉教授、神奈川憲法アカデミア共同代表)



海渡雄一さん

開港記念会館 6号室

10:00 シンポジウム「消費者被害にあわないために  
～最近の被害事例から学ぶ」

鈴木 義仁、小野 仁司、山下 聖仁、川田 奈保子  
(弁護士・神奈川県弁護士会 消費者問題対策委員会委員)

14:00 シンポジウム「子どもの貧困と食格差～私たちができること」

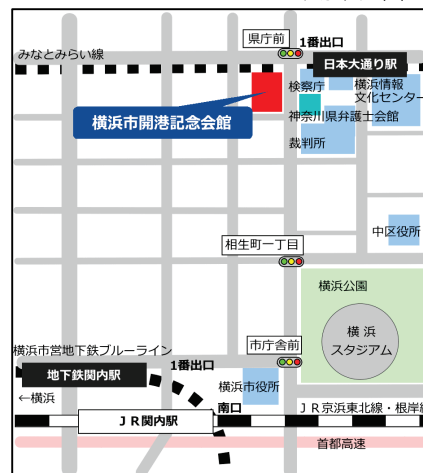
がん 鷹 咲子 さん  
(跡見学園女子大学マネジメント学部教授)

横井 葉子 さん  
(スクールソーシャルワーカー・スーパーバイザー、  
横浜市立大学国際教養学部国際教養学科 非常勤講師)



中西新太郎さん

<会場案内図>



みなとみらい線日本大通り駅 1番出口より徒歩1分  
横浜市営地下鉄関内駅 1番出口より徒歩10分  
JR関内駅 南口より徒歩約10分

主催



神奈川県弁護士会  
Kanagawa Bar Association



問い合わせ先

神奈川県弁護士会 業務課  
TEL 045-211-7705 (平日9:00~17:00)  
ホームページ <http://www.kanaben.or.jp/>

# 第7回 人権シンポ in かながわ

2019年11月 2日 (土) 10:00～ 横浜市開港記念会館

## 🏛️ <講 堂> (定員481名)

◆DVD「死刑を免れた男たち  
～無期懲役囚の実態～」上映

◆講演「死刑廃止と代替刑を考える」

時間：10:00～12:00 (開場9:30)

主催：刑事法制委員会

現在、約1800名もの無期懲役囚が刑務所に収容されています。長い人は、60年以上もの間刑務所で服役しています。

彼らはどのような思いで日々を過ごしているのでしょうか。

死刑廃止の代替刑として終身刑が議論されていますが、終身刑を考えると、現在の無期懲役囚の実態を知ることが大切な事であると思います。

TBS報道局が制作した「死刑を免れた男たち～無期懲役囚の実態～」や、この問題に精力的に関わっておられる弁護士の海渡雄一さんのお話を聴き、終身刑や、代替刑のことについて皆様と考えたいと思います。

◆神奈川県弁護士会人権賞贈呈式

時間：12:45～13:45

神奈川県内で人権侵害に対する救済活動、人権思想の普及確立のための活動、その他人権擁護のための活動をされた個人・団体に人権賞を贈呈します。

表彰状の贈呈のほか、受賞者から喜びの声をいただきます。

◆講演「改憲問題はどのように『問題』なのか  
憲法を実感できない生活と意識の『現場』から考える」

時間：14:00～16:00

主催：憲法問題対策本部・人権擁護委員会

憲法改正の議論が進んでいますが、一方で、あまり議論が盛り上がっていない、という感も否めません。

いま、多くの人にとって、憲法を実感できない状況が作られているのではないかと、という問題意識からの講演です。憲法の意義を改めて考え直したいと思います。

中西新太郎さんは、神奈川県のある志のついでである「神奈川憲法アカデミア」の共同代表であり、若者文化論などを長年研究され、憲法問題についても積極的に発信されています。

どうぞご期待ください。

## 🏛️ <6号室> (定員110名)

◆シンポジウム「消費者被害にあわないために  
～最近の被害事例から学ぶ」

時間：10:00～12:00

主催：消費者問題対策委員会

近年、安愚楽牧場やジャパンライフなど預託商法をうたった大規模投資被害、原野商法の二次被害、情報商材及びマルチ商法など消費者が被害者となる事件が多発しています。このような事件の被害状況などを皆様にご覧いただき、被害にあわないための予防策、被害にあった場合の対応策などを考えていきたいと思っています。

◆シンポジウム「子どもの貧困と食格差  
～私たちができること」

時間：14:00～16:00

主催：貧困問題対策本部

日本の子どもの6人に1人、一人親家庭の子どもの2人に1人が貧困状態にあるといわれています。共に生きる私たちは、子どもたちのために何ができるのでしょうか。

食格差の視点から現状を知り、考える機会としたいと思っています。